

コパイバを知るあの人に聞く。
代理店・取扱店・ご愛用者のことば

ひと と い 生

第五回

コパイバ正規代理店 株式会社シーズン

代表取締役 秋庭 宏是さん

華やかな生き方、 追い求めた豊かさのカタチ

私は大阪で生まれ育ち、父母に兄と私の四大家族でささやかに暮らしていました。10歳になる頃、製造業を営む父の商売が大成し、宝塚に大きな家を構え引越しまして。傍から見ればなに不自由な生活だったと思います。一方で父は多忙から重圧もあったのでしょうか、以前より威圧的に振舞うようになりました。小さな家の方が良かったね、と兄とよく話していたものです。

父は私たち兄弟に仕事を継がせたかったようですが反発もあつてか二人とも我が道を進み、私は当時東京に新設されたばかりの歌舞伎座 東新館で呉服屋が営むギャラーの支配人を任され、禅書画の展示や販売の仕事に就いていました。20代半ばの私よりお客様のほうが造詣が深く、知識を披露しても逆に禅問答を受ける日々でした(笑)

ある日、名だたる社長さん方が「先生」と呼ぶ老紳士がギャラーにいらっしやり、誘われるままに一流といわれる会社の経営者が集う勉強会に参加

するようになりまして。それからというもののあちこちから声を掛けていただくようになりまして。時はバブルの真ただ中ですから、芸能人や著名人のパーティや会食に呼ばれてはお酒や煙草を浴びるように飲み、遊び回るようになりました。世間が「偉い」と呼ぶ大人との付き合いは華やかなものでしたが、暫くすると心から楽しい訳でもないことに気がきました。若くして豪勢に飲み歩き周囲から羨ましがられるが、家族とはうまくいっていないし子供は私に近づきもしない。毎晩眠れず、身体は怠いし排便すら辛い。これが自分の目指すべき道なのか、疑問に思うようになってきました。

バブルの崩壊と傷ついた心

そんなある日、ご存知のようにバブルが弾ける時が訪れます。つい先日まで贅沢の限りを尽くしていた豪胆な社長さんが、一夜にしてガラリと人が変わってしまふ。対して同じ状況下にあつて心穏やかに見受けられる社長さんもいました。両者の違いに注目すると、前者には強いコンプレックスを抱えた方が多かった。劣等感や心の痛みをお金で埋めても、風が吹けば枯葉のように舞い散り消えるものなんです。

自分自身を見つめ直せば、絵や音楽に没頭したり、家業から離れ華やかな世界に出入りしたり…父が嫌いで反発していたようで、実は父の眼を私に向けさせたかったんだと気付いたのです。そして同時に、父が私を遠ざけていたように私自身も我が子を遠ざけ、同じ境遇を押し付けていることにハッとしました。自然と涙が止め処なく溢れ、打ちひしがれる私の膝元に幼い娘がやって来てちょこんと座ってくれましてね。自分の中のコンプレックスに反発するのではなく抱きしめてあげると、途端に心がふっと楽になる。